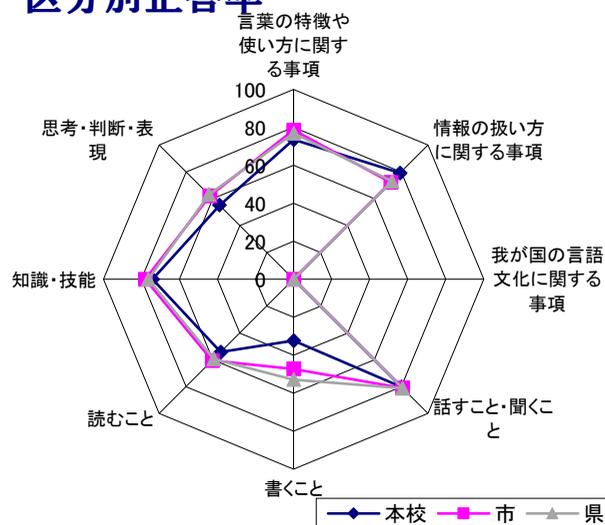


宇都宮市立平石北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.6	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	79.2	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	80.2	81.0	81.1
	書くこと	32.3	47.2	52.8
	読むこと	54.2	60.5	59.3
観点	知識・技能	74.2	78.0	76.5
	思考・判断・表現	55.2	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

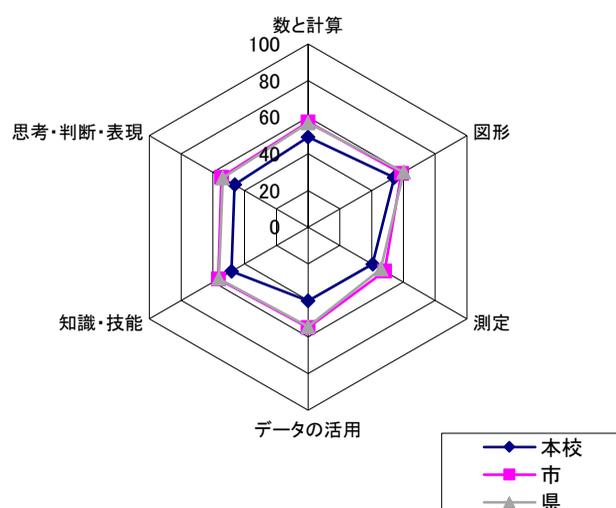
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は73.6%で、県の平均を3.3ポイント下回った。 ○漢字を正しく書く問題では、「美しい」の正答率が70.8%で、県の平均を2.4ポイント上回った。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読むことができるかどうかをみる問題では、正答率が70.8%で、県の平均を8.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き朝の学習の時間等を使って、既習の漢字の読み・書きを復習する時間を設け、反復練習することで定着を図る。また、他の教科や日常生活においても、文章を書く際には習った漢字を積極的に使うよう指導する。 ●1人1台端末でローマ字入力の練習を行い、ローマ字に触れる機会を多く持つ。
情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は79.2%で、県の平均を6.1ポイント上回った。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が79.2%で、県の平均を6.1ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国語辞典の表記の仕方、読み取り方(見方)や見出し語の並び方を理解し使い方に慣れるため、授業や宿題などで辞典を引く練習をしたり、自主学習などで国語辞典を使った活動を紹介したりする。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は80.2%で、県の平均とほぼ同程度だった。 ○司会者の話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率が87.5%で、県の平均を7.0ポイント上回った。 ●参加者の発言の内容を基に、司会者の発言として適するものを選ぶ問題では、正答率が62.5%で、県の平均を6.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級活動や話し合い活動、また、朝の1分間スピーチを行うなどし、話を要約したり言い換えしたりする場面を意図的に設定する。 ●話し合い活動を行う際には、役割を明確にし、話の内容を整理しながら話し合いが行えるようにポイントを示す。 ●自分の思いや考えを話す機会を設けたり、他者の意見や考えと比較しながら話を聞く場面を設ける。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は32.3%で、県の平均を20.5ポイント下回った。 ●指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる問題では、正答率が33.3%で、県の平均を24.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事の振り返りや週末日記を書くことを通して、書くことに慣れさせるとともに、指定された長さや文章構成(2段落構成など)で書く経験を積ませる。 ●他教科の学習においても、自分の考えを理由や事例を明確にしながらか表現する機会を多く設け、「書く」指導の充実を図る。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は54.2%で、県の平均を5.1ポイント下回った。 ○文章の要約を読み、空欄に適する言葉を書き抜く問題では、正答率が33.3%で、県の平均を10.6ポイント上回った。 ●叙述を基に文章の内容を捉える問題では、正答率が50.0%で、県の平均を13.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、説明文の学習では、筆者の考えが表れている言葉や文章に気を付けて、内容を正確に読み取れるようにする。 ●物語文の学習では、叙述を手がかりに、登場人物の気持ちや思いを読み取る活動を意図的に設定していく。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	49.2	57.4	56.9
	図形	54.2	58.7	60.1
	測定	40.6	48.1	45.7
	データの活用	40.3	54.9	54.3
観点	知識・技能	48.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	46.3	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

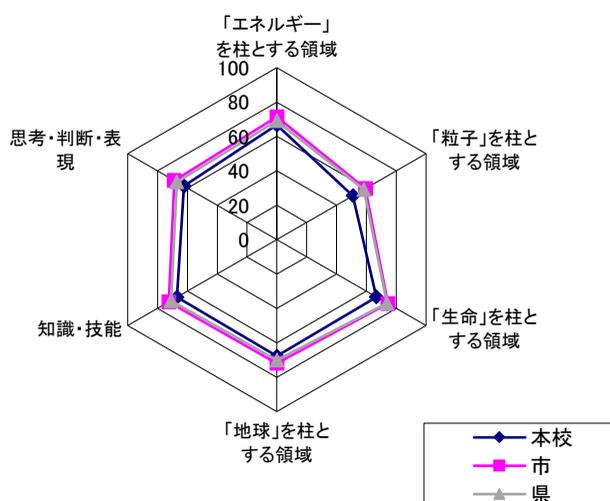
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の平均正答率は49.2%で、県の平均を7.7ポイント下回った。 ○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題では、正答率が58.3%で県の平均を10.5ポイント上回った。 ●余りを切り上げて答えを求める問題では、正答率が33.3%で県の平均を21.3ポイント下回った。 ●口を使ったわり算の式に合った文章を選ぶ問題では、正答率が45.8%で県の平均を16.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で小数や分数にふれる機会を増やし、しくみの理解を深められるようにする。 ・分数や小数の概念を言葉で理解させたり、図や絵でイメージを掴む練習をしたりして習得を図る。 ・かけ算の基礎である「1つ分」「いくつ分」を意識できるような文章問題を繰り返し行ったり、式から問題を作る練習を行ったりすることで式の成り立ちについて理解を図る。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の平均正答率は54.2%で、県の平均を5.9ポイント下回った。 ○二等辺三角形になる点を選ぶ問題では、正答率が37.5%で県の平均を5.3ポイント上回った。 ●箱の横の長さから球の半径を求める問題では、正答率が33.3%で県の平均を23.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円や球の直径や半径の特徴を正確に理解できるよう、実際に長さを図る活動を取り入れ深められるようにする。 ・具体物やICT機器を活用しながら円や球の半径からはこの長さを求めるなどの様々な応用問題に取り組ませる。
測定	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の平均正答率は40.6%で、平均正答率は県の平均を5.1ポイントを下回った。 ○単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短いか説明する問題では、正答率が58.3%で県の平均を6.6ポイント上回った。 ●時間が経過する前の時刻を求める問題では、正答率が41.7%で県の平均を14.3ポイント下回った。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、正答率が20.8%で県の平均を8.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な値を問題文から見落とさずに読み取れるように、様々な文章題から正しく立式し答えを求められるように取り組ませる。 ・測定活動の結果をノートにまとめ、自分の考えを整理させたり図や式を使って測定結果を表現したりする活動を取り入れ指導する。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の平均正答率は40.3%で、平均正答率は県の平均を14ポイント下回った。 ●二次元の表から読み取り、正しい傾向を選ぶ問題では、正答率が41.7%で県の平均を19ポイント下回った。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題では、正答率が25.0%で県の平均を17.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や用途に合ったグラフに表すことで、よりわかりやすく表現できることを理解させ、認識を深める。 ・社会や理科、総合的な学習の時間などでもグラフを活用する機会をつくり、様々なグラフを読み取ったり、目的に応じてグラフに表したりする場を設けていく。 ・記録したデータを表や棒グラフに表し、視覚的に分かりやすく表現させたり、グラフの種類によってデータの傾向がどのように見えるかを比較させたりして、知識の定着を図る。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	66.7	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	51.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	66.7	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	67.7	72.0	70.1
観点	知識・技能	67.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	62.2	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は66.7%で、県の平均を2.4ポイント下回った。 ○輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ問題では、正答率が66.7%で県の平均を12.4ポイント上回った。 ●豆電球に明かりがつく回路の組み合わせを選ぶ問題では、正答率が54.2%で県の平均を18.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を基に、課題について見通しをもち、追究活動や体験活動、実験や観察を通して原因や理由を推測する時間を充実させていく。考察では、これまでの学習や生活との関係、さらに調べたいことなどに関連させてまとめるよう指導する。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は51.0%で、県の平均を7.3ポイント下回った。 ●粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ問題では、正答率が16.7%で県の平均を10.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮説や考察、まとめでは、授業で学習した言葉や名称等を使い、理由や条件、設定を踏まえながら、言葉で表現する活動を積極的に取り入れていく。 ・普段の生活で目にする現象を、粒子の概念を使って説明することで理解を深める。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は66.7%で、県の平均を7.1ポイント下回った。 ○ホウセンカが育つ順番に図を並び替える問題では、正答率が66.7%で県の平均を3.6ポイント上回った。 ●モンシロチョウとの比較を基に、クモが昆虫といえるかを述べた文章として正しいものを選ぶ問題では、正答率が37.5%で県の平均を24.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫眼鏡やルーペなどの道具を使いながら、直接、動植物の観察をさせたり、写真や動画を活用して動植物の特徴に気づかせたり記録させたりして考える場面を設ける。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は67.7%で、県の平均を2.4ポイント下回った。 ○温度計の正しい使い方を選ぶ問題では、正答率が91.7%で県の平均を9ポイント上回った。 ●午前と午後、日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ問題では、正答率が45.8%で県の平均を10.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の記録の仕方を考えさせたり、実験結果を基に条件を満たした考察を文章でまとめさせたりする活動を取り入れる。 ・温度計や方位磁石などについて、知識として得るだけでなく正しい活用方法を指導し、計測する場面を設け、学習を深めさせていく。 ・学習したことを知識として得るだけでなく、自分たちの生活のどの場面で活用されているのか、どんな時に生かせるか、自分たちの生活とどのように関わっているのか、考える場面を設け、学習を深めさせていく。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は66.7%で県を9.3ポイント上回った。また、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでしよう戦している。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は91.7%で県を10.4ポイント上回った。以上の結果から、前向きに取り組む姿勢が身に付いているといえる。今後も、様々な学習場面や学校行事等で挑戦する機会を設けていく。

○「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は79.2%で県を7.8ポイント上回った。学校でのICT活用の充実により、情報を得る方法の幅が広がり、「調べる」ことが、子供たちにとってより身近なものになっていることが分かる。今後も、図書やインターネットを活用できる環境を整えることで、疑問点について積極的に調べたいという気持ちを生かし、学ぶ意欲をうまく活用していきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は87.5%で県を9.3ポイント上回った。分からないところをそのままにせず、教師に質問をし、課題を解決しようとする態度が育っている。今後も引き続き、質問しやすい雰囲気構築し、学力向上を図っていききたい。

○「人と話すことは楽しい。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は100%で県を4.4ポイント上回った。子供たちの中で、気軽に意見が言えたり、相談したりできる関係性が築けていることが分かる。授業の中でも、ペアやグループで話し合う活動を積極的に設け、自分の考えをより広げたり深めたりすることができるようにしていく。

○「しょう来のゆめや目標をもっている。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は95.8%で県を5.8ポイント上回った。また、「家の人としょう来のことについて話すことがある。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は79.1%で県を11.6ポイント上回った。今後も、各教科において自分自身を見つめたり将来に希望をもったりするような活動を積極的に取り入れていきたい。

○「算数の学習は好きですか。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は75%で県を3.9ポイント上回った。また、「算数の学習は、しょう来のために大切だと思いますか。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は100%で県を4.1ポイント上回った。さらに、「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は91.6%で県を17ポイント上回った。このことから、算数への関心や意欲が高いことが分かる。今後も、子供たちが学ぶ必要性を感じながら、楽しく学べるような授業を実践していく。

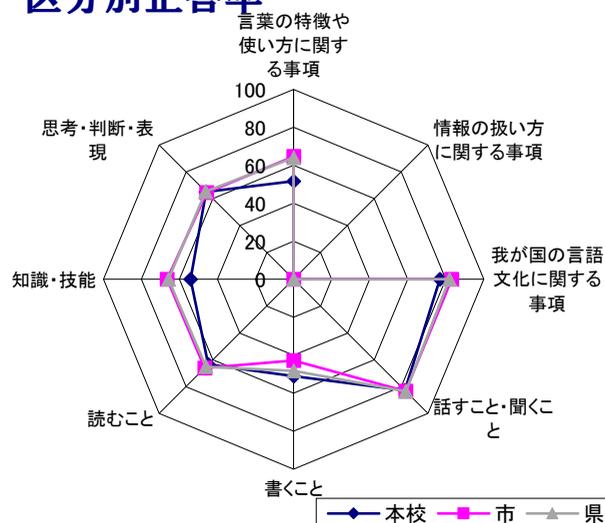
●「授業を集中して受けている。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は79.2%で県を12.2ポイント下回った。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は87.5%で県を7.7ポイント下回った。「学校のきまりを守っている。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は79.2%で県を15ポイント下回った。以上の結果から、授業の受け方や話の聞き方、学校での生活の仕方について継続的な指導をしていくことが必要である。

●「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は83.3%で県を9.2ポイント下回った。授業だけでなく、係活動や学級会など、日々の生活の中で児童が主体的に取り組む機会を増やし、責任を持って取り組ませることで、やり遂げる喜びや達成感を実感できるようにしていく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	51.7	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	76.9	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	82.7	83.3	83.4
	書くこと	51.0	42.8	48.2
	読むこと	63.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	54.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	65.1	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

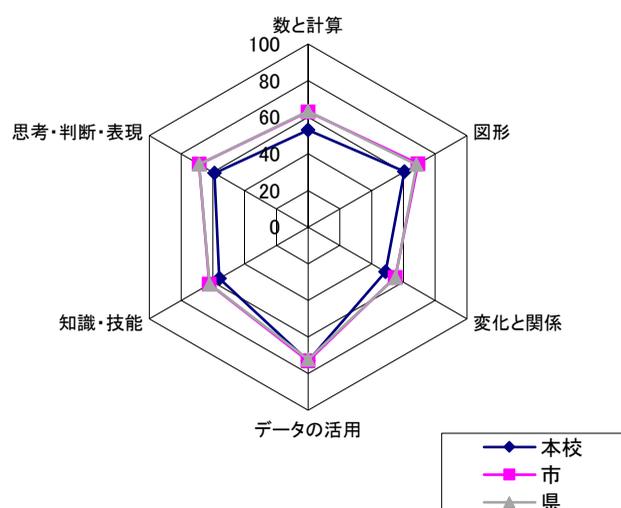
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は51.7%で、県の平均を12.4ポイント下回った。 ○漢字を正しく読む問題では、「自信」の正答率が100%だった。 ●漢字を正しく書く問題では、「季節」の正答率が26.9%で県の平均を26.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きについて、新出漢字を使った様々な熟語に触れる機会を意図的に設定するとともに、短文作りなどを通して日常生活の中で習った漢字を活用できるようにしていく。 分らない漢字や熟語の意味を辞典や1人1台端末を活用して調べさせ、語彙を増やし正しく活用できるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は76.9%で、県の平均を5.0ポイント下回った。 ●「ちりも積もれば山となる」のことわざを正しく使っている文を選ぶ問題では、正答率が76.9%で県の平均を5.0ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語辞典や漢字辞典、ことわざ辞典などを活用し、ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る機会を増やす。 ことわざや慣用句、故事成語などを日常生活の中で実際に使えるようにしていくために、条件を示して日記や短文を書く活動を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は82.7%で、県とほぼ同程度だった。 ○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題では、正答率が92.3%で県の平均を4.6ポイント上回った。 ●参加者の発言の内容を基に、司会者の発言に適する内容を書く問題では、正答率が69.2%で県の平均を8.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いて、自分の考えを整理して話す活動を積極的に取り入れ、根拠を挙げながら筋道を立てて話すことができるような学習活動を行う。 話し合い活動では、自分の考えを発表したり話し合いを進行したりまとめたりする体験を多く取り入れていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は51.0%で、県の平均を2.8ポイント上回った。 ○アンケート調査の結果から読み取ったことを、1つ目の段落に書く問題では、正答率が50.0%で県の平均を11.4ポイント上回った。 ●アンケート調査の結果を基に自分の考えを書く問題では、正答率が46.2%で県の平均を6.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 字数や段落構成などの条件を提示して作文に取り組ませるとともに、学校行事の振り返りや週末作文などを通して、「書く」指導の充実を図る。 ペアやグループ学習の中で、友達の書き方のよさを自分の文章表現に生かすことができるように支援する。 自分の意見とその理由や根拠を明確にさせて書くことができるように日常のノート指導を通して具体的に働きかける。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は63.5%で、県の平均を1.6ポイント下回った。 ○説明文において文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかをみる問題では、正答率が76.9%で県の平均を11.0ポイント上回った。 ●物語文において場面の様子について発言者を捉えることができるかをみる問題では、正答率が50.0%で県の平均を12.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、文章を読み取るときに、文章の要点となるキーワードや大事な言葉について学級全体で考えたり、話し合ったりし、中心となる事柄や場面の様子を読み取れるようにする。 物語文の読み取りでは、登場人物や時間の経過など教材文の叙述に着目させて、場面の様子を考える学習を重点的に指導していく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.0	63.0	63.3
	図形	60.6	69.2	68.3
	変化と関係	48.7	54.8	55.0
	データの活用	73.1	73.1	72.3
観点	知識・技能	55.9	62.3	62.1
	思考・判断・表現	59.0	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

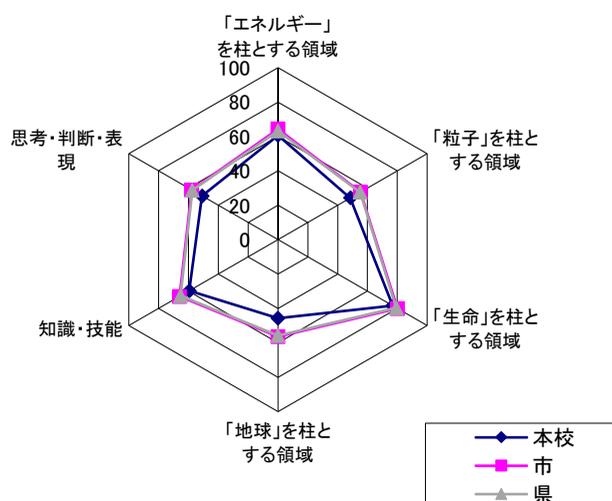
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の平均正答率は53.0%で、県の平均を10.3ポイント下回った。 ○23億が23万の何倍かを答える問題では、正答率が42.3%で県の平均を6ポイント上回った。 ●小数第一位÷整数＝小数第一位の計算をする問題では、正答率が34.6%で県の平均を21.8ポイント下回った。 ●計算の間違いを説明する問題では、正答率が34.6%で県の平均を21.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・真分数、仮分数、帯分数、整数の大小比較ができるように数直線や図を使って視覚的に捉えさせ、分数の理解につなげる。 ・小数の計算を取得させるために、数直線や図を使って小数の大小を比較させたり、筆算のやり方を習得させたりする。 ・計算の順序や計算のきまりを理解させ、正しく説明したり計算したりできるようにさせる。 ・フォローアップシートやドリル等を活用し、学力向上担当教員と連携しながら個に応じた指導を充実させる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の平均正答率は60.6%で、県の平均を7.7ポイント下回った。 ●三角定規の組み合わせでできた角の大きさを求める問題では、正答率が34.6%で県の平均を19.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の特徴を理解し、コンパスや三角定規、分度器を正しく使えるよう指導し、反復練習に取り組み定着を図る。 ・角度を覚え、様々な加減計算に取り組みせたり、様々な方法で図形の角度を求めることを考えさせるとともに、AI型学習ドリルや計算ドリルなどを活用し、いろいろな面積の求め方を理解できるように指導する。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の平均正答率は48.7%で、県の平均を6.3ポイント下回った。 ○表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を考える問題では、正答率が80.8%で県の平均を6.4ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、正答率が30.8%で県の平均を20ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AI型学習ドリルや計算ドリルなどを活用し、表から読み取れる2つの数の関係を数字で表すことに慣れさせてから、文字を使った式に表すことができるよう、反復練習をし定着を図る。 ・学校生活の様々な場面で、「倍」を使った表現を使えるような活動を取り入れたり、教科の学習にも関連づけたりして、身近な場面で割合の仕組みを生かせる力を育む。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の平均正答率は73.1%で、県の平均を0.8ポイント上回った。 ○二次元の表の空欄が、どのような人数を表しているかを説明する問題では、正答率が92.3%で県の平均を15.9ポイント上回った。 ●折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題では、正答率が50%で県の平均を21.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表が何を表しているのかを理解し、データを正確に読み取ったり表に表したりする活動を取り入れ、表やグラフを活用する力を育む。 ・学校生活の様々な場面でグラフや表を利用する機会を増やし、その便利さに気付けるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.6	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	48.5	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	76.9	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	45.7	56.4	55.8
観点	知識・技能	59.5	66.0	65.3
	思考・判断・表現	50.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は60.6%で、県の平均を2.6ポイント下回った。 ○図で示された回路における乾電池のつなぎ方の名称を問う問題では、正答率が76.9%で県の平均を9.6ポイント上回った。 ●乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路のうちプロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ問題では、正答率が46.2%で県の正答率を11.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気の流れについて調べる学習において、実験した結果を図を用いてまとめたり、言葉を使って説明したりする活動や実験を多く取り入れ、学習内容の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は48.5%で、県の平均を6.6ポイント下回った。 ○実験結果のようになった理由を、温度による空気の状態の変化に着目して答える問題では、正答率が42.3%で県の平均を12.6ポイント上回った。 ●湯気について適切に述べた文章を選ぶ問題では、正答率が7.7%で県の平均を21.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の周りの生活経験と関連付けて考えさせたり、体験活動を取り入れたりし、仮説を立てて学習課題に取り組むことを授業の中で多く取り入れる。また、科学的な視点から観察や考察をする機会を意図的に設定する。 AI型学習ドリル等ICTを活用して学習内容をアウトプットする機会を意図的に取り入れ、定着を図る。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は76.9%で、県の平均を2.4ポイント下回った。 ○人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨の数に着目して差異を答える問題では、正答率が88.5%で県の平均を7.1ポイント上回った。 ●夏に記録されたサクラの様子を示した図を選ぶ問題では、正答率が84.6%で県の平均を4.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 模型を活用したり、観察の難しい動植物の生態についてはICTや図書資料を活用したりし、興味や関心をもって学習できるようにする。 他教科とも関連付けて体験的に学習に取り組み、学習の定着を図る。 学習したことを基にグループで考えを述べ合い、考えを広めたり深めたりするなどの活動を行うことで理解を深める。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は45.7%で、県の平均を10.1ポイント下回った。 ○1日の気温の変わり方を示したグラフを適切に読み取った内容の文章を選ぶ問題では、正答率が46.2%で県の平均を3.6ポイント上回った。 ●実験結果から水たまりのできにくい地面を選び、その理由を答える問題では、正答率が19.2%で県の平均を22.3ポイント下回った。 ●雨の日の気温を示したグラフを選び、1日の気温の変化に着目して選んだ理由を答える問題では、正答率が46.2%で県の平均を17.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的内容の理解が不十分である単元については朝の学習やフォローアップシートを活用して定着を図る。 科学的根拠を基に考察する時間を確保し、自分の言葉でまとめる時間を確保したり、単元のまとめでは科学的見方を育む機会を設けたりし、自分たちの生活との関わりの中で知識の活用力や表現力を高められるようにする。 AI型学習や図書資料のほかに、新聞やテレビ等の社会から得られる情報を活用し、学習内容に興味関心がもてるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は88.5%で県を10.5ポイント上回った。また、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦している。」という質問に対しての肯定的回答の割合は84.6%で県を7.5ポイント上回った。このことから、自分の意見を深めるために話し合い活動を活用し、示された課題に対して皆で協力しながら解決を目指すようとしている傾向がみられる。今後も、自分の意見をもつ時間を大切にしながら、友達と意見交換する時間も確保することで、観点に沿った話し合い活動を行い、意見の再考や深化に有意義な時間となるよう指導を継続していきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は73.1%で県を5.0ポイント上回った。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」という質問に対しての肯定的回答の割合は88.5%で県を6.7ポイント上回った。このことから、物事に対する興味関心が高く、自分自身で試行錯誤しながら課題に対して前向きに取り組んでいる傾向がみられる。探究心の点については、認め励ます指導を継続し自己肯定感を高めていく。個人での探究学習やペアやグループなどで課題解決に取り組む場を設定し、課題をもち、皆で学習を進めることで結果を生み学習成果が得られる経験を積み重ね、達成感を得られる機会を設けていきたい。

○「算数の学習は好きですか。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は76.9%で県を12.1ポイント上回った。1人でも多くの児童が意欲的に授業に取り組めるよう、単元前には学習状況の実態把握を行い、その結果から進め方や展開を検討することを通し、引き続き授業改善に努めたい。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は61.6%で県を12.3ポイント下回っている。宿題や各教科での課題などについては自分なりに取り組むことができるが、自ら課題を見つけ、考えを深めていくことに苦手意識をもっている傾向がみられる。児童が自信をもって取り組めるようにするためにも、各自がそれぞれのめあてや課題をもつための時間を確保し、児童の主体性を育ていけるような授業の展開や自主学習の励行につなげていきたい。

●「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている。」という質問に対して、本校の肯定的回答の割合は73.0%で県を18.7ポイント下回っている。また、「クラスは発言しやすいふん囲気である。」という質問に対しての肯定的回答の割合は76.9%で県を6.4ポイント下回った。このことから、自分の意見や考えを皆に発表するときに「間違えたらどうしよう。」「責められないかな。」など、少なからず不安を感じている傾向がみられる。児童の自己肯定感を高め、多くの場面で挑戦していけるようにするためにも、朝の会や帰りの会、学級活動等の時間を活用して、多様な意見を寛容的に受け入れることや相手の立場や気持ちになって言葉を発したり、行動したりすることの大切さを継続的に指導していきたい。

宇都宮市立平石北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成 ～対話的活動を効果的に取り入れた授業づくりを通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮モデルの指導の質的向上 ・学習課題を明確にして深い学びのある対話的活動の充実 ・活発なコミュニケーション活動の充実 ・日常的な「書く」「話す・聞く」活動の充実 ・個に応じた指導の充実 	<p>4年生は、国語の「情報の扱い方に関する事項」においては県や市の平均を上回ったが、「書くこと」においては下回った。問題内容を理解すること、課題解決に向け必要な情報を得ること、自分の思いや考えを指定された長さや構成でまとめることが難しいという傾向が見られた。算数の「データの活用」においては、表やグラフから課題解決に向けた必要な情報を得られない傾向も見られた。</p> <p>5年生は、県平均より低めの結果となった。国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では県や市の平均を下回ったが、資料から読み取ったことを課題に則して解答することができ、「書くこと」において、県や市の平均を上回った。小数の「数と計算」において県や市の平均を下回り、小数を含む計算や分数の大小理解、計算の理解に課題が見られた。</p>

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
宇都宮モデルを意識した授業を行ってきたが、読解力(語彙力)の育成、自分の考えをまとめ整理する力、数や計算のきまりの定着などに課題が残った。基礎力を問う問題の中でも、思考力・判断力・表現力等を問う問題に課題がみられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において基礎・基本内容の確かな習得 ・得られた知識・技能を活用しながら、対話的活動を効果的に取り入れた課題探究学習 ・対話的活動を通し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 	<p>十分に定着していない内容を見直し、フォローアップ問題やAI型学習等を計画的に活用し、基礎・基本の習得を図る。また、対話的活動を効果的に取り入れた課題追究学習に取り組む場を設けたり、読解力(語彙力)を育くんだりする。また、情報・資料活用能力が育成できるような学習や活動の場を設定し、発展的且つ補充的学習の定着を目指す。</p>